

梨の花

市川市立稲荷木小学校

〒272-0024 市川市稲荷木1-14-1 Tel. 376-5961
<http://www.toukagi-syo.ichikawa-school.ed.jp>

なぜ学校で学ぶのか

校長 清田 博之

今年度の最終号となりました。わたしから稲荷木小学校の子どもたち全員に、進学・進級への希望の門出にあたり「はなむけの言葉」を贈ります。

コロナ禍で目まぐるしく変わる生活の中、ある日、わたしに質問をした子がいました。「なぜ、学校で勉強をしなくてはいけないのですか」という問いに、今日改めて答えようと思います。

「なぜ学校で学ぶのか」

「それは、あなたが自分の力を高め、誰かのお役に立てる人間になるためです。」

学校でする勉強は、教科の勉強や行事や集団活動等たくさんあります。自分の考えを友達に伝えたり、考えを受け取ったりしながら、問題を解決することも勉強です。特に、コロナ禍の今年は、例年の学校とは違う始まり方でした。楽しみにしていた行事も中止になったり、集会や体験活動も制限されました。その中で学び続けることは、決して簡単なことではなかったはずですが、今まで当たり前できていたことができなくなると、人は時々弱気になって、あきらめてしまうことがあります。でも、今年のみなさんは、挫けずに何度でも挑戦を続け、制限された中でも運動会の代わりにイナリンピックや音楽会等いろいろな行事をやり遂げました。初めて体験する苦難を乗り越えようと、仲間を支えてもらいながら、できるまで挑み続けました。たとえできないことがあっても、そこから立ち上がるたびに、心は強くなっていったのです。それこそが、自分を高め、将来多くの人のお役に立つための底力となるのです。

人は自分を高め、誰かのお役に立つために生まれてきたのです。生まれたばかりの赤ちゃんや病気の人や寝たきりのお年寄りは何の役にも立っていないわけではありません。その人が一生懸命生きていて、そばで見守る人に生きる希望や生きがいを与えているのです。しかし、役に立つというのはそれだけではありません。特に成長途中の皆さんは、自分の夢に向かって学び続けることで、自分の力が高まり、これから出会うもっとたくさんの人を助けたり、守ったりできるのです。学校は自分の頭と心と体を鍛え、希望の明日へ向かっていく力を蓄える場なのです。

稲荷木小のみなさん、負けることを恐れず、強い心を以って挑戦し学び続けてください。強い心を持つ人こそ、きっと周りの人にもやさしくできるはずです。史上初のコロナ禍を乗り越え、前向きに生きてきた皆さんだからこそ、それができると私は信じています。

保護者・地域の皆様、令和2年度は、子どもたち以上に回りの大人にとって辛く苦しい年でした。そんな中でも稲荷木小学校の子どもたちをサポートしていただき心より御礼申し上げます。コロナの影響はしばらくは続くとは思いますが、「全ては稲荷木小学校の子どもたちの為に」をスローガンに、今できる最大限の努力をしてみたいです。新年度も引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



※不定期発行の学校だより「梨の花」を1年間、ご愛読いただきありがとうございました。

引継ぎ式 3月17日(水)



卒業式の主役は6年生であることはいうまでもないのですが、在校生の5年生にとっても、「リーダーとしてのバトンを引き継ぐ」という意味をもつ重要なものです。本来ならば、卒業式に参加するはずですが、コロナ禍でそれもかなわず、その代わり予行練習に参加をして、卒業式の雰囲気と心構えを感じ取り学んでもらうことにしました。

5年生にとって、身近なお手本立った6年生。稲荷木小学校のリーダーとして活躍してくれたお礼の言葉と、「次は自分たちの番」という自覚を込めた呼びかけ。きっと、今の6年生の姿に、「1年後の自分」を重ね合わせていたことでしょう。最後に、心を込めて「旅立ちの日に」を合唱しました。

卒業証書授与式 3月19日(金)

コロナ禍で「時短・密をさける（距離の確保）」の措置がとられた卒業式。

学事報告、お祝いのメッセージの披露、来賓の皆様の出席、在校生の出席などが無い、例年とは少し違った形ではありましたが、「卒業生の希望の門出を心を込めて祝福する」という気持ちに少しも変わりはありませんでした。



68名の卒業生の未来に幸あれ！